

### 3. 第3回フォーラム記録

平成 17 年 6 月 4 日

#### 開 会

【司 会】 名簿がございますが、この中で石井先生、佐和先生、佐藤先生は午後から御出席と伺っていますので、午前はこれだけでスタートさせていただきます。このフォーラム、第1回、第2回は3年前にやらせていただいたのですが、3回目をやらせてほしいということを経済研に申し出ましたところ、格別の御配慮で今日こういう会をやらせていただくことになりました。本当にありがたく思っております。

お手元の予定表がございますが、金森先生にご挨拶をお願いします。先生、どうぞよろしくお願ひいたします。

【金 森】 金森でございます。このフォーラムは、副所長をしている北川先生が出ておられて、私は今まで出ていなかったのですが、先生は今日は都合が悪いということで、僕に押しつけられたというのが正直なところです。挨拶というのは苦手でございますので、挨拶にかえて、それから時間が少しあるとおっしゃいましたので、国際高等研の現況を簡単に御説明申し上げたいと思います。

初めての方もいらっしゃいますが、高等研本館は6,000平方メートルほどで、研究棟と事務棟に分かれています。寝殿造という設計思想でできた建物と聞いております。オムロンの創設者の立石さんの個人的寄付を基に、総工費30億でできた建物です。敷地は6ヘクタールで、京都府から無償で借りているものです。

当初は何を研究するべきかを研究するというのを目的としてスタートして、このモットーは今でも覚えられているようですが、研究課題を探しあぐねているような印象を与えているので、これは過去のこととしたいと思っています。我々としては、現在は、「人類社会の調和的発展のための問題解決の統合システム創造に係る基礎研究」という課題名で、普通の科研費などではできない総合的な研究をやっていくのを第一にしております。

研究費のことを申し上げますと、科研費に特定奨励費というカテゴリーがございます。山階鳥類研究所とかがん研究所といういろんな機関に向けて執行されるものです。これを3,900万ほどいただいています。何か題が必要で北川先生につけていただいたのが先ほど述べた課題名です。そのほかに通常の科研費や学術振興会、そのほかいろいろな機関

や財団からいただいている金がトータルで多分2,000万に近い額です。財団の基金は40億ほどあり、一生懸命運用していただいた結果の利子がかかなりありますが、建物の維持費とか、職員給料、その他に支出され赤字です。しかし、科研費にもなじまない機動的な費用、この研究会の費用もそれに近いのですが、それには財団からいただいた資金があてられて、大変ありがたいと思っております。

どのような研究事業をやっているかという、大体4つあります。このフォーラムのような研究会は御存じのように番外に位置づけております。第一に毎年10人ほどフェローを招いて個人的な研究、好きなことをやってくださいとお願いしております。100万円ほど研究費も用意いたします。それからプロジェクト研究。これは課題を決めてチームを組織し、2年から4年にわたって、多角的な検討を行います。大小20ほどのプロジェクトを実施し、そのカバーする分野は、人文、社会、数理および物理科学、生物科学と全領域の学問に関係しています。第3はスペシャリスト養成事業と呼んでいますが、普通の大学院ではなかなかできないような領域で専門家を育てようという目的で行っています。例えばもう今では普通になりましたが、情報生物学というのが言われ出す前から、ここでワークショップと申しますか、20日間スクールを開きまして合宿訓練もやりました。それを2年やりました後で東大、奈良先端科学技術大で大学院専攻が新設されました。コンピューショナル・マテリアル・デザインという計算による物質設計という分野では、既に3年間計6回開いております。原子力研究所の関西研究所が近くにあって、スーパーコンピューターと教室を持っていますので、共催しています。これは大変盛況で、必ずしもポストクラスに限らないで、教授の方が方々から参加されますので、希望者が非常に多くて、1週間の予定で、原研とここと行き来してやっております。これらはワークショップスタイルですが、知的財産に関する法モデル研究という分野では、特別研究員という形で少数の若手の方を採用して、専門家を育成し既に4名の助教授を各地の大学に送り出しています。また新しい情報手段を用いた学術情報システムというのをつくろうということをしております。それ以外いろんな国際交流事業も行っています。

しかしこういうプロジェクトなど何か目的を持ったものばかりをやっておりますと、すぐ普通の、ありきたりの研究所になりがちですから、何でもいからやりたいというお申し出があれば、小規模であればお引き受けしましょうということにしております。失礼ですけど、廣田先生の今回のご提案も…廣田先生、最初はフェローでおられて、フェローとしては何をやっていただいても結構ですということで、このフォーラムを始められたのですが、フェロー

の期間、研究費を差し上げる期間は終わりましたが、先ほどご挨拶にございましたように、フェローの活動に準ずるといった位置づけでお受けしました。

プロジェクトとしてはどんなことをやっているかという、例えばセンサー論という阪大の文学部の鷺田さんが主宰しているのがあります。それからこのスキルの科学、これには前身がありまして、昔「わざ学」ということで始められて、代表者は音楽をやっていた山口修先生なのですが、その議論づけということで、結局、ポランニーの暗黙知の理論というのを柱にして、音楽について研究をすすめられました。それを継承された形でさらに広めて、それと臨床哲学という、鷺田さん得意の分野と結びつけた人間の感覚ということを目にした研究がセンサー論プロジェクトです。一方で、これは岩田一明先生という機械工学の方が代表で、わざ学の他の一面を継承して、ロボット工学に加えて、心理学の人にも参加していただき、スキルの科学というプロジェクトを行っています。

このようなことをお話していますと時間がありませんからやめますけども、一方、いろいろな世界観の衝突、あるいは異文化の衝突という大テーマで、様々なプロジェクトを行っています。中川久定先生が代表の「一つの世界」、それを継承した「多元的世界観」プロジェクトで基礎的な問題を議論すると同時に、宇宙開発で、宇宙ステーションという閉鎖社会に諸国から集めた十数人閉じ込めて1年間もつかどうかという問題があるわけで、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の方からも要請があったものですから、宇宙開発の人文社会学的研究もやっております。

それから、ガーナとかキルギスタンとかインドネシアとかの発展途上国で、政府の高官レベルで、JICAその他から派遣された方が何人かおられるわけですが、その方の経験というのは、本当に集大成されてなくて、埋もれているので、異文化の衝突といいますか、交渉ということの観点から、中川先生も参加されて、整理研究をされてまとめるという研究も行われています。

これらのプロジェクトはなるだけネットワークをつくって全体的に未来の人類社会に役立つ諸概念とシステムを創造しようとしております。

以上でございますけども、もし御興味があれば、いくらでもお答えします。これをもってご挨拶にかえます。

【司 会】 ありがとうございます。また御質問の時間をつくってよろしゅうございますか。それでは先生、どうもありがとうございました。

## 自己紹介

皆さんはお互いによく御存じの方が多いと思いますけれども、一応ちょっと簡単に自己紹介をお願いしてよろしゅうございますか。それじゃ、池内さんから。

【池内】 池内です。今年の4月から、名古屋大学から定年を3年残して早稲田大学に移ったのですが、新しい科学の分野をつくれなものかと、既存の分野だけではおもしろくないというので移って、まだこれからということなんです、今日ちょっとそういう話もできたらと思います。どうぞよろしくをお願いします。

【司会】 どうもありがとうございました。日高先生、お願いします。

【日高】 日高と申します。僕は、もともと動物学出身で、動物行動学なるものをずっとやってきたのですが、実際にやっていた話は昆虫の研究なのですが、途中で農学部と工学部のある東京農業大学に15年ばかりいました。そのときにいろんなことを勉強しました。結局、仕事はほとんど農業とか林業とかいうものに関係のある昆虫の行動の話というような格好でいまして、それで、理学部出身の動物学者とは、大分様子が違うようになってくると、もう一つは、工学部の方々は、物を科学的に全部つくっちゃうというような。我々は自分が研究している動物なんて、つくったこともないし、つくれるはずもない。いつも非常に情けない思いをしている。これはどういうことなのだろうとか、そんなことをいろいろ考えるわけです。それから獨協大学に移り、今は割と新しくできた総合地球環境学研究所なるものをやっています。すぐ隣にライカさんというのがあって、これは地球環境学研究所なんです。こっちは「総合」が上についていますが、それだけの違いで、何とも言えない。一体総合地球環境とは何ぞやと。これはわからんというような状態で、とにかくそこは梅原猛さんとか、中根千枝さんとか、その辺の方々がかぶっている。要するに環境問題だということは、医学とか自然科学であるとか工学だけじゃ絶対済まないよと。人文社会の話が入らなきゃだめだと、一緒になってやりなさいというのでできた研究所なのです。そういう面は、所長の僕がやらなきゃいかんというふうに思っております。いろいろ幅広く考えなければいけないという、そういうことを考えて、勉強させていただこうと思います。どうぞよろしくをお願いします。

【司会】 鴨下先生。

【鴨下】 このリストの下、参加者名簿の下から2番目の鴨下と申します。臨床の医者でございまして、専門は小児科でございます。実は過去2回参加させていただいておりまして、最初、3年前に私は現在の学会の第7部の（今は部長なんですけども）3年前は副部長

をしておりまして、当時の部長の遠藤實先生、やはり医学の先生ですけども、「進歩主義の後継ぎは何か」というテーマで高等研で会議があって、どうしたものでしょう、誰に行ってもらいましょうかって相談があって、遠藤部長がそういうときは大抵私に代わりに行けというようなことで、何もわからなくて、進歩主義なんていうのはどういうことかわからないことがありました。私としては、最初は生殖補助医療にかかわる生命倫理なんかのお話をさせていただきまして、第2回目のときには、私は小児科なものですから、少子社会、少子化問題についていろんな、学術会議もちょうど特別委員会の委員長を務めていたものですから、そのデータを発表させていただきました。ようやく進歩主義の後継ぎは何かというのがわかりかけてきて、今回、前2回の参加者は特に参加してもよろしいという御案内も頂戴して、スピーカーの先生方のお名前を拝見するとこれは何か大変おもしろそうで勉強になるということで、ちょうど時間がとれましたので、参加させていただいた次第でございます。よろしくをお願いします。

【司 会】 出口先生。

【出 口】 国立民族学博物館及び総研大文化科学研究科の出口と申します。民博に来てから2年ほどになりますけど、それ以前は葉山にあります総研大の本部の方にいました。廣田先生が学長になられてすぐ私は赴任したということで、今日ここに分不相応ながら呼ばれて来ているのではないかと感じております。総研大自体は大変崇高な理想を持っておりまして、現時点でそれがどの程度達成できているかということはさておいて、こういう崇高な理想を持っている知的な場所があるということが大変重要なことではないかと思えます。私は、池内先生の御友人ともいべき湯川哲之さんという物理学者の隣に研究室があって、それから、私自身は文系でございますので、ですけども、高畑先生のような集団遺伝学の先生とか本当にさまざまな分野の方々と日々、そうですね、5割5分ぐらいは国立大学法人化の問題を、4割5分ぐらいは知的な話に伴った雑談をするような機会に恵まれておりました。私自身は、現在NPO（非営利組織）、NGO（非政府組織）の研究をしております。考えてみますと、この国際高等研も民法上の財団法人で、実はNPO、NGOでございます、それから、国立大学の独法化というのも、世界的に言えばこれは国の施設が「擬似的なNGO」（Governmental NGOでGONGO）化しているということでございます。それから、これまでの研究会で、一、二度言及されています「ローマクラブ」という重要な団体がございしますが、これもNGOでございます。そういったこともございまして、こうした新しい知的挑戦とそのNGOの関係というのは非常に深いものがございまして、幾ばくかそういった感じ

のお話をさせていただければと思います。何とぞよろしくお願いいたします。

【高 畑】 総合研究大学院大学の高畑と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私自身はもともと遺伝学研究所におりまして、遺伝学の中でも集団遺伝学、進化の問題を取り扱ったものでございますけれども、13年ほど前に総研大に移りまして、新しい研究科をつくるというミッションがあったものですから、そこで自分がやってきたことを少し生かして何か新しい活動を行いたいとやってまいりました。その結果できた研究科がございますが、先ほど出口さんがおっしゃったように、これがどこまでうまくいってるかというのが問題なのでございますが、私としては、自分の研究を生かしながら、できるだけ総研大の理念に近いものをつくりたいと思って活動してきました。ただし、4年前に廣田先生が退官されて、不幸にしてそれ以降副学長という職になりまして、教授の職を取り上げられた。(笑)自分の研究する時間がなくなっちゃったということですが。御存じのとおり、ちょうど法人化が実行されるということもありまして、教授であっても研究する時間はなかったのかもしれないなと思っています。この4月から教授に復活いたしまして、多分それには週に1日ぐらいは何か研究してもいいんだよということだと思んですけども、そういう時間をいただいて、いわば当初完成したいと思っていたことがまだ中途半端でございますので、そんなことをこれからやっていきたいと思っています。

特に、この研究集会は、フォーラムは梅原先生にお出でいただいて、進歩主義といいますが、これからの人の生き方についての根本的な課題、メッセージが上がっているものですから、大変共鳴いたしまして、自分の専門分野から、そういった人の今後のあり方について、何かできないかと。そういう立場で、専門性の上でやれることを考えていきたいと思って参加させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

【御園生】 御園生と申します。2005年4月から長い名前の独立行政法人、製品評価技術基盤機構(ナイト)に移っております。それまでは東大、工学院大学にいました。バックグラウンドは化学ですが、廣田先生の理学部化学ではなく、工学部の応用化学科にいました。直接の物づくりをしてはいないのですが、工学部にずっといましたので、物づくりのサイドからものを見てきました。高度成長とともに育ち、その後の反省期も経験しました。東大を終える頃、評議員になって工学全体を見る機会が増えましたが、そこで、我々の学科で問題にしていた工学の在り方が、工学部全体に共通した問題であることを感じました。その後、日本学術会議に行きまして、この問題意識が、実は、人文、社会から医学、農学にわたる全体の学術に共通していると強く感じるようになりました。

この4月から、ナイトへ移りましたが、ナイトはもともと輸出品の検査所が前身で全国に5-60カ所あったようです。世の中のニーズが変わって、今は、技術の安全、安心を技術的にサポートする各種の業務を行っています。具体的には、化学物質の管理や生活製品の安全に関する業務、さらに、微生物の大規模な収集・保存を行っております。ナイトに入りましたのは、これまで、私自身、技術とか産業に関して、効率だけでなく安全についても、つくる側の立場で考えてきましたが、一度、使う側、つまり、市民側、消費者に近い立場でこれらについて考えたいと思っておりました。そこへ、ちょうどぴったりの話が来たものから喜んで参加して、今のところは全然違う次元の管理業務に追い回されてはおりますけれども、勉強しながら何がしか貢献できればいいなと思ってやっているところでございます。今日は勉強のつもりで参りました。ひとつよろしく申し上げます。

【司 会】 ありがとうございます。金森先生、ちょっとお話を続けてください。

【金 森】 自己紹介を忘れていました。私は物理、物性をやっております。

民法、知的財産の専門家の北川善太郎先生が副所長です。御承知のように、大学は、所属の研究者の発明について特許権の所有者になります。これはアメリカのバйдール法を真似した制度です。発明者には相応の対価を与えないといけないけど、とにかく組織が知的財産権をもつ。アメリカではその弊害が既にいろいろ現れておりまして、その功罪が真剣に議論されております。事実、日本の大学では、自由な議論というのがなかなかできなくなっている。バイオ関係がひどいと思うのですけれども。そこで、北川先生と相談して本当の意味の共同研究をやるためには、自由な議論を確保できるような、しかも特許関係のいろいろな制約からも解放される形の共同研究をするための規約といいますか、法モデルをつくりました。それを高等研モデルと呼んでいます。それをさらに発展させて、高等研究所を自由な議論の砦にしたいと努力しております。一言だけ付け加えさせていただきました。

【司 会】 どうもありがとうございました。

何かこのフォーラムの趣旨説明をしようかと思っていたんですが、時間がちょうどなくなりまして（笑）、フォーラムの趣旨というのはなかなか厄介でございまして、一口にいかないので、あえてしない方がむしろいいのではないかと考えております。報告書を皆さんにお送りして、その冒頭にちょっとわかりやすい言葉で書いたことがございますので、現状はそれからあまり出てないんですが、この3年間、第1回、第2回をやってからもう3年たつわけですけど、その間にやはり問題意識は随分世の中に広がったなというふうに私は思っております。今回でまたさらに一層先生方の御議論でこういう認識を深めていただいて、決して

何か一つの固まった報告にまとめるというようなことを私は考えておりませんで、こういうものがずっと浸透していくということ、あるいは拡大していくことをむしろ願っているような次第でございます。

事務的なことで一つお願いは、前回同様記録をつくりたいと思っています。第1回、第2回では、いろいろとご配慮していただいてこんな立派な報告書をつくっていただいたんですが、きょうの御発言も忠実に再現してですね、それで、将来の発展につなげるようにしたいと思っています。それで、フォーラムを録音するようにお願いしております。ディスカッションのとき、議論が白熱してくると一回一回そうはいかないかとは思うんですけど、発言する前にできるだけお名前を言っていただいて御発言をしていただければありがたいと思います。それで、テープ起こし、DVDだそうですね、DVD起こしをいたしまして、それをある程度こなしてから先生方にお送りして、目を通していただき、手直ししていただくということをお願いしたいと思います。1年ぐらい多分かかるとは思いますが、どうぞよろしく申し上げます。